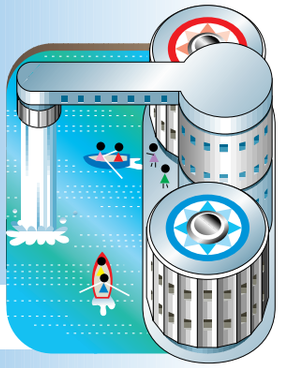
5 くらしをささえる大和川



大和川の水は，
わたしたちの生活と
どのようにかかわって
いるのかな。
みんなで調べよう。

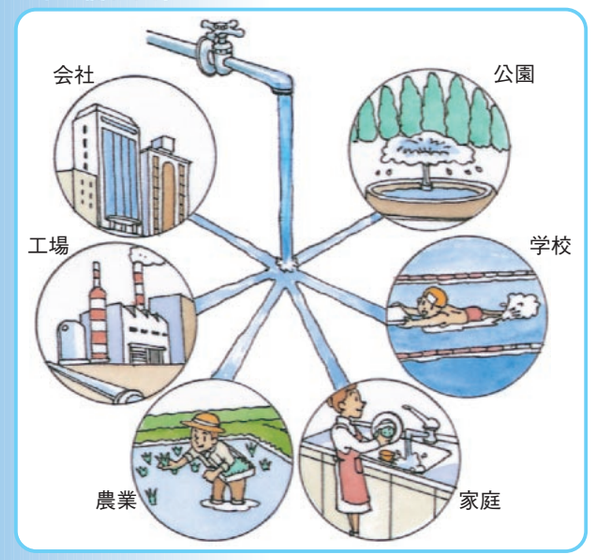
(1) くらしと大和川

1　くらしに大切な水

水の利用
わたしたちの生活の中で，水を利用することを利水といいます。

わたしたちは，家庭や農業，工場などのいろいろなところで水を利用しています。水は，わたしたちのくらしにかかすことができない大切なものです。では，大和川の水は，どのように使われているのでしょう。

▼水の使われ方



大和川流域は，もともと雨のふる量が少ないことや，まわりの山地が低くて大きな支流が流れていないことなどから，水不足になやんできました。

そのため，大和川流域の市町村では，大和川の水を取り入れる量を決めて，川の水量を保つようにしてきました。

2　大和川の水の使われ方

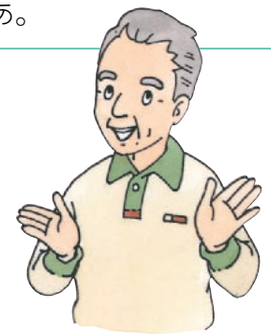
奈良県の一部では，大和川の本流や支流の水をため池に引き入れて，今も農業などに使っています。大阪府の一部でも，大和川の支流の石川の上流に滝畑ダムをつくって，その水を使っています。しかし，大和川の水だけでは足りないため，遠く淀川流域や紀の川（吉野川）から水を取り入れています。

大和川が人びとの命のみなもとであったころ

もともと大和川は，今よりももっと人びとのくらしと深い結びつきをもっていました。

下の絵やおじいさんの話から，あなたの近くの大和川の昔のようすを，調べてみましょう。

昔の面かげは，
なくなりましたなあ。
昔は，大和川から
いろんなものをいただいて
くらしていました。
川に行ったら，だれかに
会いましたしね。
今は，だれも川に
行かんようになりました
なあ。



今の大和川とは，ずいぶん
川のようすがちがうね。
大和川で泳げたなんて
いいなあ。

わたしたちが使っている水道水は，どこからきているのかしら。

(2) 山と大和川

1　森林を守ろう

わたしたちが使っている水はどこからくるのでしょうか。それは川の水であり，山地にふった雨です。

森林は，ふった雨が一度に流れていかないように，地面の落ち葉や下草，土などが水をスポンジのようにすいこんでたくわえます。やがて水は地下にしみこんで地下水となり，少しずつゆっくりと川などに流れていきます。そのため，洪水や水不足をやわらげられるはたらきがあります。

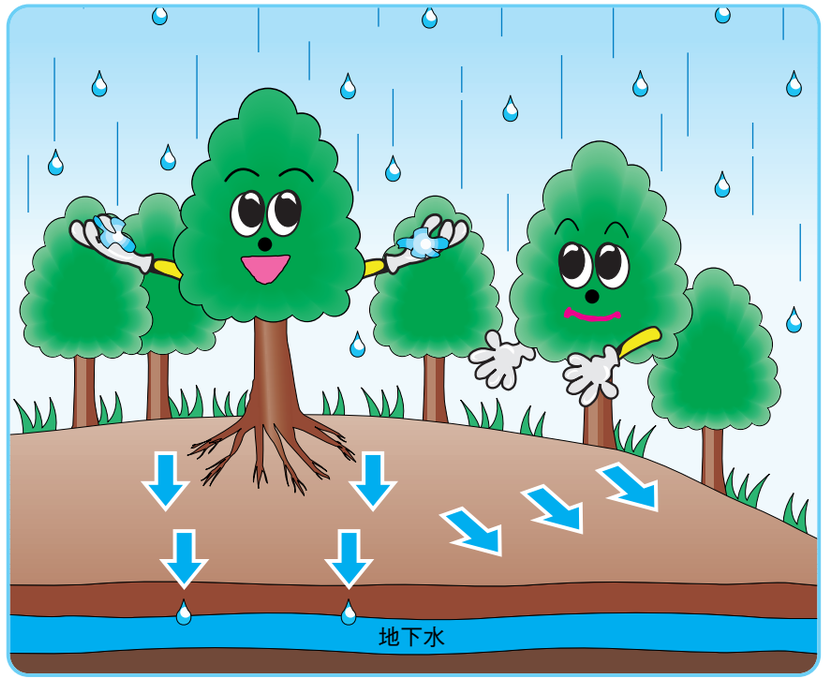
さらに森林には，大雨のときに土やすなが流れ出ることを防ぐはたらきもあります。

このようなはたらきから，わたしたちは森林を大切にして，守っていかなければなりません。

森林のはたらき

森林は，水げんとしてのはたらきのほかに，生き物に食べ物やよいすみかをあたえたり，空気をきれいにしたりします。また，木は木材となり，建物や木製品の原料になります。

地下水は，長い年月をかけて，川や池，湖から海へ流れていくのね。



2　大和川とダム

大和川流域には，大阪府の滝畑ダムや奈良県の初瀬ダム，天理ダムなどのいくつかのダムがあります。

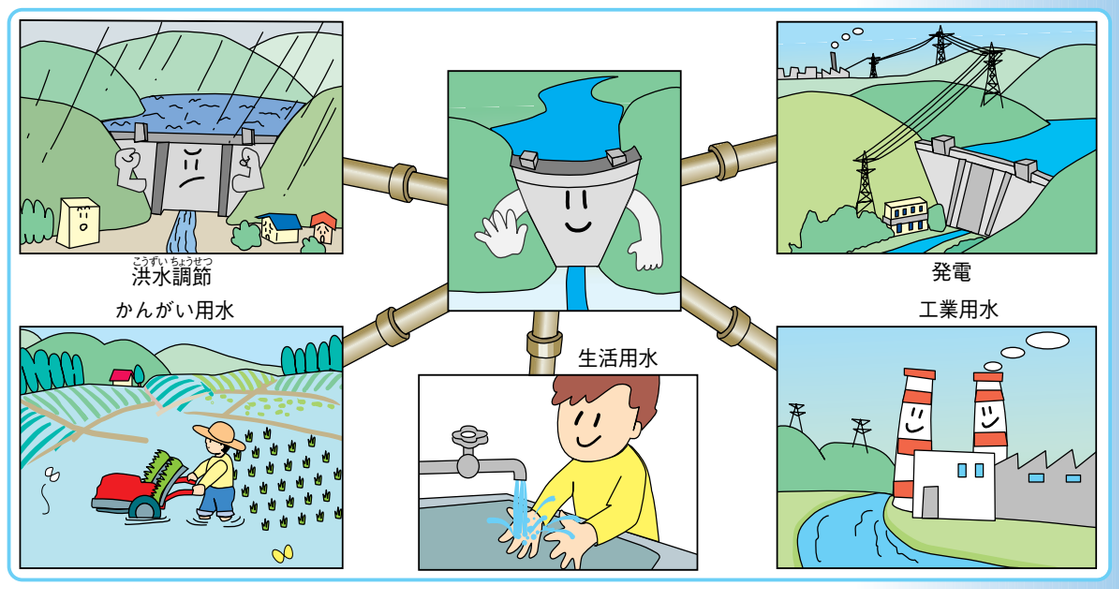
ダムのおもなはたらきは，水を確保し，必要なときにいつでも使えるように水を送ることです。また，ふった雨が一度に川に流れこまないようにダムにためて，少しずつ川に流すことで水害を防いでいます。

大和川とその支流にはありませんが，放流される水がもつ大きなエネルギーを電気に変える，発電用のダムもあります。

大和川流域にも，ダムがあるんだね。

▲滝畑ダム

▲初瀬ダム



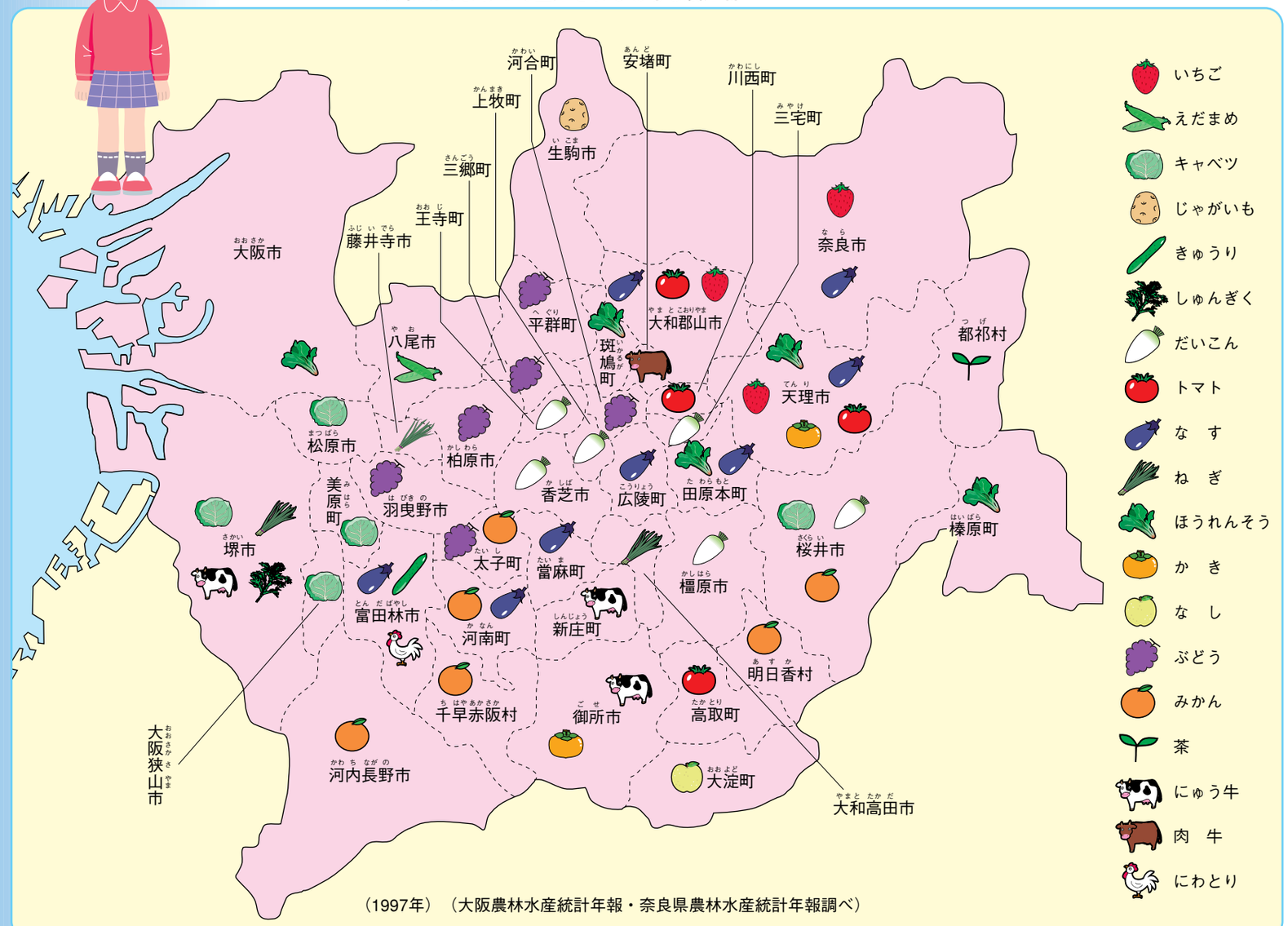
▲ダムのおもなはたらき

(3) 大和川流域の農業や漁業

1　大和川流域の農業

大和川流域の市町村では，米作りのほかに，低地ではいちごやほうれんそう，トマトなどの野菜，山地ではかきやぶどうなどのくだもの，茶などが作られています。

大和川のまわりで生産されるおもな農産物



（1997年）（大阪農林水産統計年報・奈良県農林水産統計年報調べ）

十津川・紀の川（吉野川）総合開発

なおやさんたちは，水不足で苦しんでいた奈良ぼん地に水を送るための，十津川・紀の川総合開発について調べました。

十津川・紀の川総合開発

吉野川分水…吉野川の水を津風呂ダム，大迫ダムにためて，奈良ぼん地に送ります。

十津川分水…奈良県に取り入れた分だけ和歌山県に流れる水量が少なくなるので，熊野川（十津川）の水を猿谷ダムにためて吉野川の下流の紀の川に送ります。

2　大阪わんの漁業―豊かな森林と川が魚や貝を育てる―

▲大阪わんの漁業（シラスウナギ漁）

大阪わんは，昔から「ちぬ（クロダイ）の海」とよばれるほど，魚がたくさんとれました。淀川と大和川が流れこみ，海の生き物を育ててきたのです。

しかし，最近は，すなはまがなくなったり，川の水がよごれてきたりしたため，魚があまりとれなくなってきました。

このため，魚のすみやすいかん境をつくったり，ち魚（魚の子ども）を放流したりして，魚がたくさんすむ海にしようとくふうしています。

▲▶とれとれ市
堺出島で毎週土曜日，日曜日に開かれる魚市と青空レストラン。

漁業協同組合で働く高田利夫さんの話

大和川の河口から数100mのところまで，川と海の水がまざってる。ここで，ち魚が育つんや。大和川がきれいになったら，どんなにええやろう。今でも，河口でウナギのシラス（ウナギの子ども）をとって，静岡県の浜名湖へ送っているんや。

第２次世界大戦前まで，堺市の海岸は，とてもきれいで，水族館や潮湯（塩分をふくんだ温せん），魚料理の旅館がたちならんで，にぎやかでしたで。

漁業をする人が山に木を植える

最近，日本の各地で漁業協同組合などが中心となって，川の上流に木を植える活動が行われています。

これは，ふ養土（落ち葉がび生物で分解されてできる栄養分の多い土）の栄養分が川によって海に運ばれ，魚などの成長にかかせないプランクトンを育てるはたらきを取りもどそうとするためです。

3　大和郡山市の金魚の養しょく

奈良県大和郡山市は，300年以上前から金魚の生産がさかんで，日本各地に送っています。

▲▼金魚池

大和郡山市には，農業用のため池がたくさんあり，ため池に発生するミジンコなどが金魚のえさにちょうどよいなどの条件がありました。

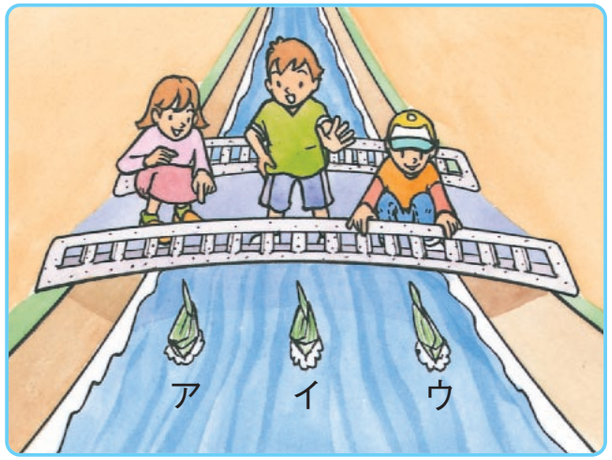
昔は，大和川の支流の富雄川や佐保川の水をため池に引きこんで，金魚を生産していましたが，最近は，川の水がよごれてきたことなどから，いど水や水道の水を金魚をかう池に引いています。

大和郡山市では，金魚の品ぴょう会や全国金魚すくい選手権大会などを開き，市の特産物としての金魚を多くの人に知ってもらうくふうをしています。

▲全国金魚すくい選手権大会

クイズ　流れの速いところはどこ？

右の絵のように，まっすぐに流れている川の橋の上から，ささ舟をつくって流しました。いちばん速く流れるささ舟は，どれかな？



答え　イ（川のまん中は川底が深いため，川の両岸より水の勢いが強いよ。）